

## 石西礁湖自然再生協議会 第1回陸域対策ワーキンググループ議事概要

時間：平成24年3月29日（木）18：00－19：30

場所：国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター

参加者：

千川、新城、宮良、エコツアーりんばな（内藤）、サンゴ礁基金（鷺尾）、  
八重山青年会議所（西表）、西表FC（山下）、石垣島赤土監視ネットワーク（佐伯）、  
八重山サンゴ礁保全協議会（吉田）、沖縄県土地改良事業団連合会（山下）、石垣市観光協  
会（前津）、沖縄県農林水産整備課（喜舎場）、沖縄県八重山福祉保健所（大濱）、  
沖縄県八重山土木事務所（平良・宮里）

事務局：石垣市環境課（崎山・仲本・野底・下地）、環境省石垣自然保護官事務所（千田・  
平野）

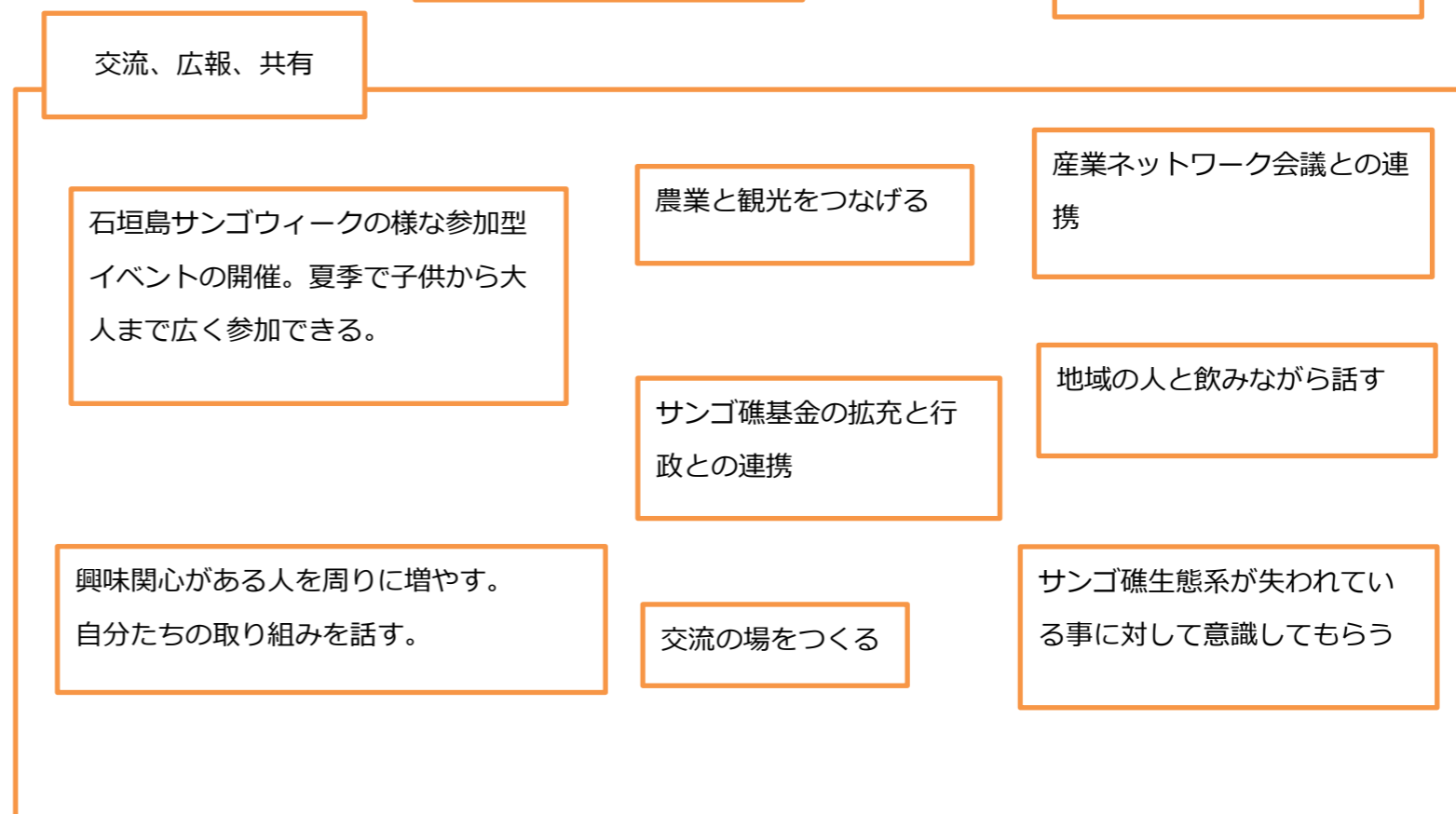
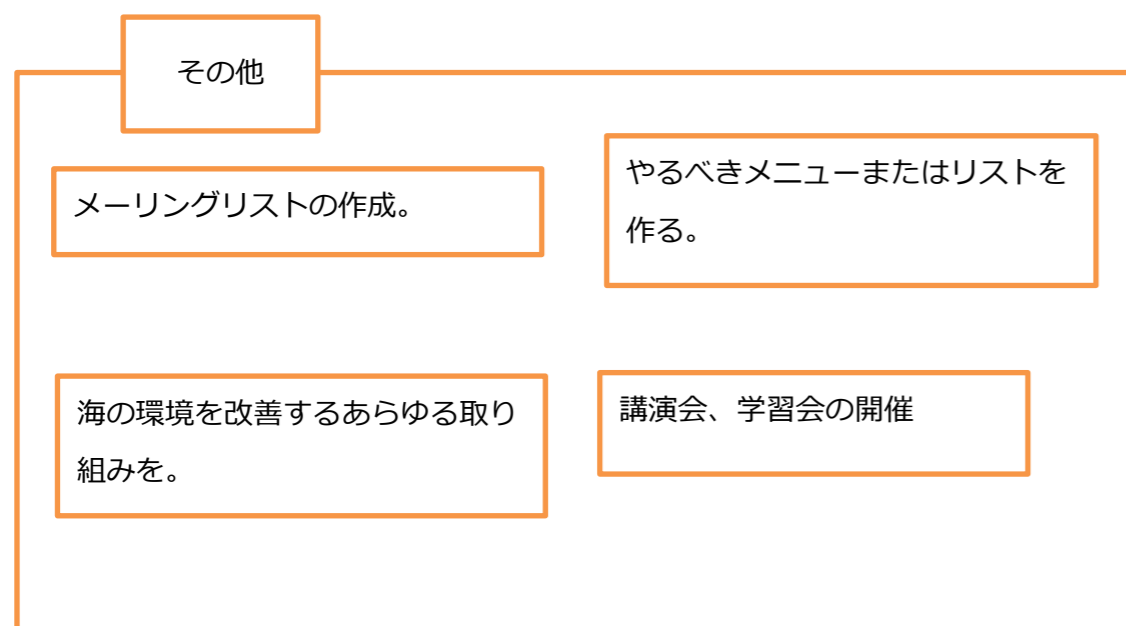
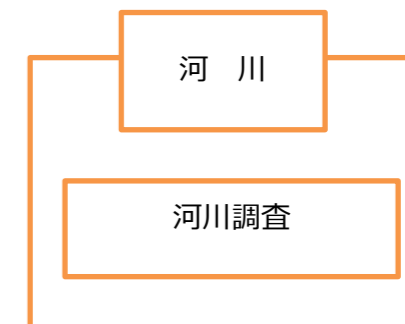
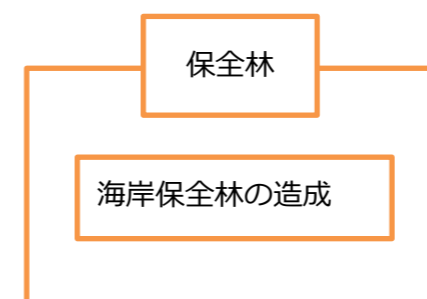
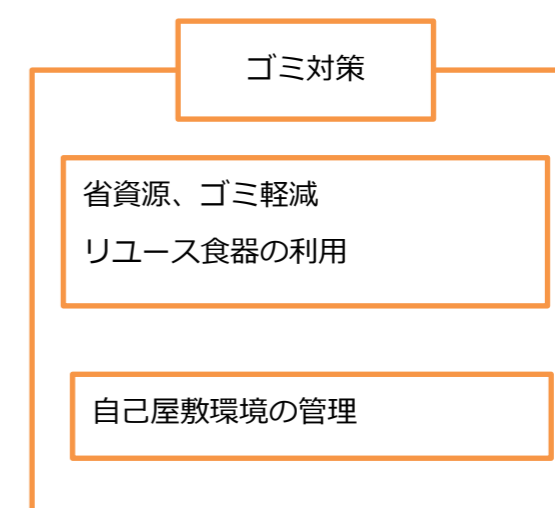
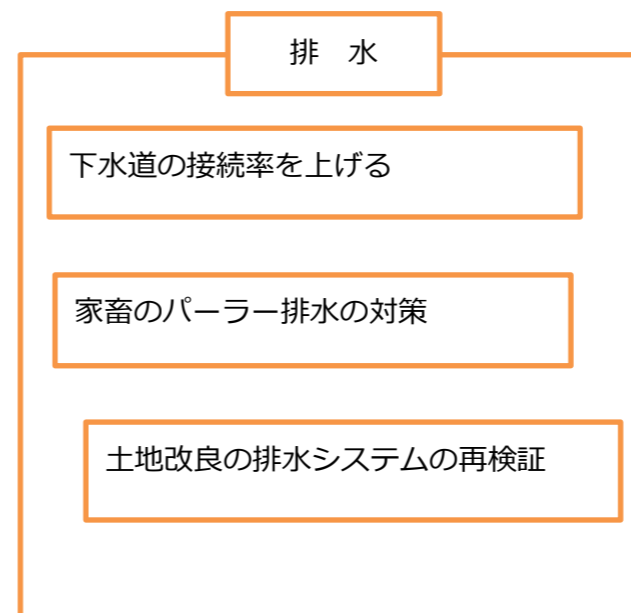
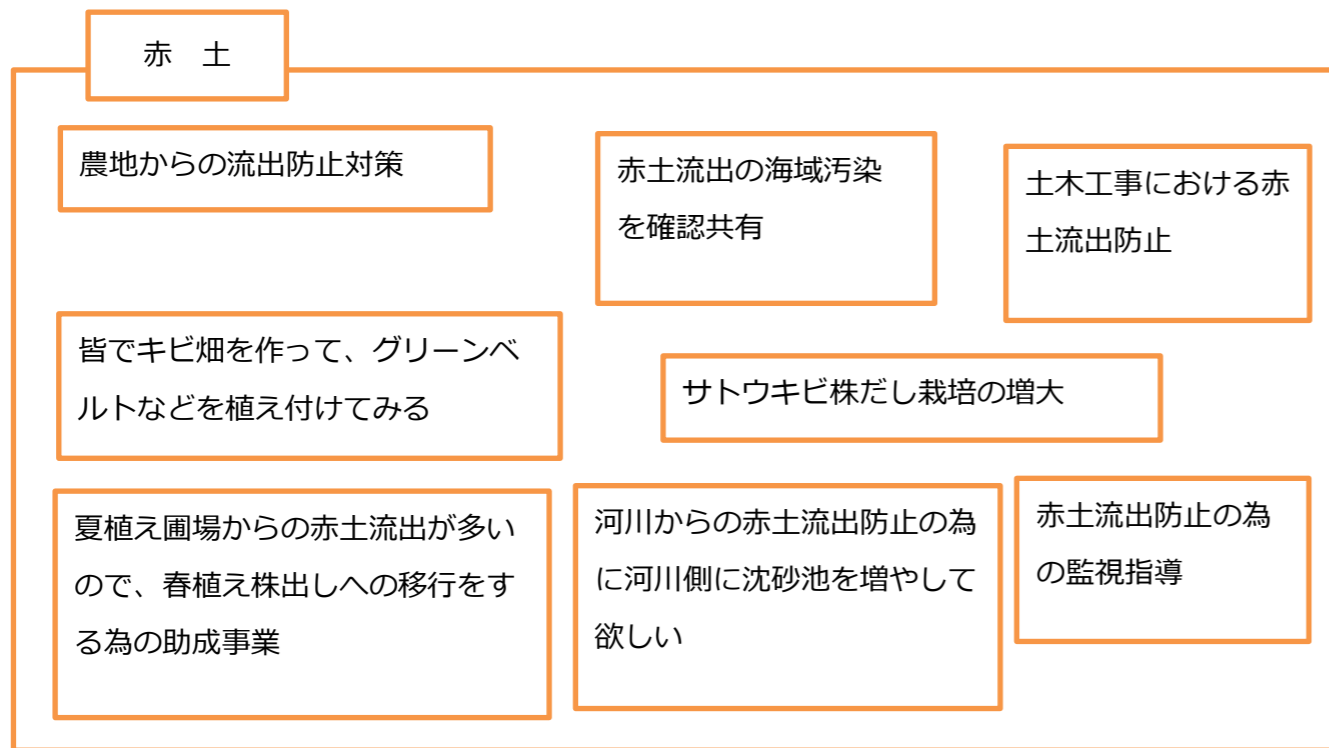
### <はじめに>

- 石垣自然保護官事務所より、陸域対策ワーキンググループ（以下、「WG」。）の設立趣旨等の説明。地元中心の実効性のある活動を行えるよう立ち上げた旨、説明。
- 石垣市環境課より、今後のワーキングの進め方について提案。事前アンケートでは「意見交換の場だけで終わらず、地元の意見を反映させた取組をしてほしい」という意見があった。このような実効性のある取組を行うために、どうかたちで進めるのがよいか（WG自体の目標を設定するか？ワークショップ形式で席を囲んでやってみるのはどうか？）また取り組む内容としては、行政に対して求めるものを挙げるだけではなく、地元の方々が自身で進めたい取組について、WGとして1、2件とりあげ、皆がその取組を後押しするような形をとってはどうか？

意見を出していく中で方針を固めていくこととして、まずは、陸域対策として取り組むべきこと、自分自身で取り組みたいことを参加者に書き出してもらい、ホワイトボードに張り出してもらったこととした。

### <参加者から、取組についての提案>

→次ページの図参照



### <情報交換・共有について>

- 赤土流出の海域汚染を確認・共有してはどうか。宮良川・新川などの沖合に大潮の干潮時に皆で観察し、現状把握をすることによって今後の取組の動機づけになる。
- 農業者とコミュニケーション・情報交換が大事。一緒に勉強会などしては。
- 「産業ネットワーク会議」（商工会・観光協会・建設業・農協・漁協の5団体の集まり。）との連携。先日、新川川の赤土問題に対して大型沈砂池設置の提案をしている。こういったところと情報交換を行ってはどうか。

### <下水道接続率の向上について>

- 具体的な方策は持っていないが、どうしたらよいか探っていきたい。
- 本土の大都市では接続率は100%に近い。これらはどうやって実現したのか、具体的な事例を調べてみてはどうか。

### <ゴミ対策>

- 自己屋敷環境管理。家で刈った草を堆肥にするなど、少しでもいいから燃やすゴミを減らすといった取組を行っている。また、人間だけでなく動物への影響も考慮した環境保全を考えたい。

### <土地改良>

- 高度流出防止事業（農地の傾斜を緩める事業）は進んできている。しかし、上流部からの雨水で畑の赤土が流れ出る。雨水の排水システムに関しては容量を広げるくらいしか行っていない。側溝が小さい。海に向け直線の排水を作る現在の方法ではなく、等高線に沿って緩やかに排水する。また、地下浸透も利用するといった方法を考える必要がある。

### <環境教育・普及啓発>

- 以前、子供たちに河川の水質調査をやってもらった。こういった環境教育を進めるのも重要ではないか。
- リユース食器の利用・貸し出しを行っているので、利用をしてほしい。

### <実効性のある取組をするためにどうすべきか？>

- これまで5年以上、似たような会が何度も開かれ議論がされてきたが、実行されたことはなかった。実効性のある取組するには、言い出した人がリーダーとなって、プロジェクトを動かしていくしかない。
- まずは、すでに動き出している活動に対し、皆で手伝って広げていくのもいいかもしれ

ない。例えばキビ畑の作業を皆で手伝い、対策を実践してみて広報する。何か皆で楽しみながらできるシンボリックな取組が1つか2つあると、そこから情報共有・ネットワークが広がって新しい活動も生まれるのではないか。

- 千川さんと一緒に、キビ畑に対して、「春植え株出し」になるような品種の導入を進めるといった活動をしている。ただ、農業者からは台風への懸念等がありなかなか進まない。協議会からぜひともやって欲しい、といった後押しがあると進むのではないかと思う。

### <WGのあり方について>

- これまでの陸域対策ディスカッショングループで、すでに、自然再生協議会全体構想を元に「石西礁湖自然再生行動指針（陸域対策）」を作成している。ここでは、既存の行政施策・課題・具体的な取り組むべき行動についてまとめられている。まずは、ここから始めるのがいいのではないか？ 行政施策については各行政機関が取り組むべきこととして、サンゴ礁基金の事務局としては、行政施策でない部分でどう進めていくか考えたい。やることは膨大。すぐには実施できなくても、たとえば基金がこのくらいあればできるというように、プロジェクトとしてもっと具体的に進められる形にまとめておくという作業をしておけば、それが基金集めのきっかけになる。
- WG全体で動くというより、グループに分かれて、リーダーを作ってその人を中心に進めていくやり方がいいのではないかと思う。
- 土地改良事業、県の現在の取組（貯水マスの増加）について、担当者に来ていただいて話し合いができるといい。まずは小さな面積でもいいので、WGの意見をとりこんで実施ができると目に見える効果が分かる。  
→県の事業としては、夏植えから春植えに替えるというモデル地区をつくって啓発的なことも行っていこうという計画がある。排水路の件については、流域計算を最初にやっているが土地改良事業が各地で増えていくと10年前の当初計画から状況が変わっていく。今、それを見直ししながら再整備を行っているところ。今後も現場検証を行いながら事業を実施していくのが重要と考えている。
- いままでも、やるべきことは何度も同じように挙げられている。それを具体的な取組として実施していくためには、やはり、やるべきと提案した人がリーダーとなって、責任もってやることから始める必要がある。
- 30年前から赤土問題については認識されているが同じことが繰り返されている。ただ行政側に何かをやって欲しい、という姿勢ではなかなか具体的な取組が進まない。行政に頼らなくても何かできることから、一つずつでも進めていくことが大事。

### <現在取り組んでいる取組①：富野のエコツアーりんばな内藤氏の取組>

- 富野で、地域の農業を営んでいるオジイたちと飲みながら話している。10年前では赤

土の話も頭から怒られるような状況であったが、ようやく少しずつ話せるようになった。しかし、地域から赤土を止めようという意識はなく、行政に対して要望があがったり補助を求めるということはない。「サンゴや赤土問題を騒いでいるのは移住者や観光客だろう、観光産業は自分たちと繋がらない」という意識。そこをどう繋ぐかが課題。そこから意識の変革につなげていければいい。自身のマイクロプロジェクトとして、慶応大学大学院、横浜国立大学と一緒に観光と農業をつなげるという取組を行っている。

→経済活動なので、やはり「先立つもの」が必要。農家に赤土対策に回せる資金的な余裕はない。外からの資金が必要。

→具体的には観光として農業体験などをしてもらうことなどを考えている。

○行政は主体的になかなか動けない。地域が主体になったところに行政が乗っかっていくというのが一番成功するのだと思う。

○こういう交流の場も大事だが、直に農家さんと交流を持てる場が大事。

#### <行動指針について>

○やることは決まっているが、では具体的に「誰がやるのか」というのが決まっていない。

やり方としては、①「赤土」「排水」などいくつか分野・テーマを決めてその中でいくつかやる。②やらない分野はでてしまうかもしれないが、これをやる、という人が手を挙げたものについてすすめる。の2つが考えられる。

○まずなかなか動かないという現状があるので、①のように網羅的にやるというよりは、②のようにまずはやれるところから1つ、2つでもいいからやってみてはどうか？

○とりあえず、これだけ予算があればできるというような企画書ができればいいのでは。

○やはり指針でまとめられている項目（今日挙げられたものも指針と大体重複している）の中でやっていくよう体制づくりを進めていくのが良いと思う。

#### <現在取り組んでいる取組②：干川氏のサンゴ礁基金を用いたキビ畑の取組>

○サトウキビの夏植え1年目の畑から赤土の全体の6割くらいが出ている。やはりお金が儲からない取組はなかなか進まない。サンゴ礁基金を昨年度40万、今年度50万円ほど使わせてもらってやって株出しのキビに替えるという取組をやっている。また、県自然保護課の事業として250万円ほど使って堆肥の配布を行っている（これまでは株出でも春植えが通常。ベイト剤（農薬）をつかって夏植え株出しを行うことが最近できるようになったがこれに堆肥が必要）。国際農林水産業研究センターに所属しているが、ここでも実験は多く行われており、やはり赤土対策としては発生源対策をやるしかないということになっている。今後も一人であってもやっていきたい。

### <取組の提案>

○すき起こした後に、ソバの栽培を行って土止めの役割を持たせるというのはどうか？

→何もしないよりいいかとおもうが、そのためにロータリーをかけたりするので赤土に対しての効果はどの程度のものかははっきりしない。収入面では農家にとって利益になるが、実際には採算性もなかなか見合わないというところと聞いている。

→（富野で）地域に話をしてみたら、収入には大したものではないが、楽しそうなのでやろうという動きになっている。楽しめて地域の副収入になるような提案を地域に出していきたい。そういったアイデアをいただきたい。

→いろいろな理由があってやってみたらいいと思う。採算性の面では、例えば補助金をとってきてやるなどもいいと思う。イモとかマメではできている。

→観光協会の「美ら海・美ら島募金」は、個人の収入のためではなく、地域への美化といった内容であれば、精査は必要だが検討はできる。

→県で「ふる水基金（中山間ふるさと・水と土保全対策事業）」という、地域が主体となって実施する活動に対し、助成する基金がある。市町村からの応募。

→インターネットを使った「マイクロパトロンプラットフォーム」などで企画が通れば、30万円ほどの助成がつくものもある。

→例えばトヨタ財団、三井物産環境基金などの民間の助成もいろいろある。かなり金額ができる場合もある。

→一括交付金の地域活性化事業として、公民館で予算をとる方法もあるのでは？

→行政からは使える予算のアドバイスを伝える場としてもWGが機能すればよいと思う。

○国際農林水産業研究センター・サトウキビ研究者の講演会をやりたい。任期はあと1年しかない。ただ、農家の方を対象にするとなかなか講演会を実施するのも難しい。人が集まらない。

→干川さんの活動も農家の方で知らない人もいるので、そういった講演もあるといい。

→富野・米原で公民館を使ってやっていただければ、地元の方は来てもらえると思う。

### <最後に>

○WGのメーリングリストを作ってはどうか？

→情報共有のため、協議会全体のメーリングリストを使うこととしたい。

○今日の内容は事務局でまとめる。次のWGはあまり時間を空けず、4月の中旬に実施したいと思っている。

○新たな出発として皆さんの協力を得ながら実施していきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。